

会報

栃木県中学校長会

発行日 昭和45年1月10日

第六回栃木県中学校教育

高揚大会の状況

△とき 昭和四十四年十月三十一日

(金)午前十時より

△ところ 栃木会館小ホール

△大会順序

- 1、開会のことば
- 2、君が代斉唱
- 3、会長あいさつ
- 4、来賓祝辞
- 5、研究討議

(1) 意見発表

○すこしでも振興させよう

日光市立日光中学校長

塩入安三郎

○青少年健全育成の基本を考える

那須郡南那須村下江川中学

校長 手塚益雄

○中学校は予備校にあらず人間形成の道場たれ

宇都宮市立陽西中学校PT

A会長 大塚晃太郎

○中学校教育の振興策

栃木市立南中学校PTA

会長 白井勲次

(2) 討議

6、宣言決議

7、万歳三唱

8、講演

9、閉会のことば

私のみたソ連

毎日新聞社囑託

原田佐久先生

第六回栃木県中学校教育高揚大会は激

動する大学紛争等の世情の中にあつて、

過去・現在・未来の教育を反省し、ある

いは展望し、教育にあたる者が、いよいよ

教育の責務の重大さを自覚しなければ

ならない時を迎え、十月三十一日(金)午

前十時から宇都宮市の栃木会館小ホール

でひらかれた。

築瀬県議会議員・手塚義務教育課長・上野市町村教委連合会長・戸叶国會議員鈴木(勲)県PTA協議会長・福島全日中会長ら来賓十数名をはじめ、県内中学校長ならびにPTA会員約三百名が出席して、現下の教育問題につき熱心なる研究討議をなし、本県中学校教育の充実発展について協議した。さらに午後「私のみ

◎会長あいさつ

本日ここに県教委・市町村教委連合会 県議会・国會議員・歴代中学校長会長・全日中会長ほか多数の来賓をお迎えし、PTAの幹部の方々をまねき、本県中学校教育振興のため、第六回中学校教育高揚大会を盛大に開会できますことは、慶賀に堪えません。現在の中学校教育は幾多の問題をかかえております。専門職の問題、新教育課程による条件整備の問題、設置基準の法制化の問題、安全教育、教育正常化の問題、教職員の勤務年限延長の問題等が山積しております。本県中学校としても第一に正常化の推進、第二教育課程の問題、第三教育諸条件の整備、第四安全教育、第五教師の問題等を考えなければなりません。教師は単なる労働者ではないし、教育界に人材を集めるため

たソ連」と題して、毎日新聞社囑託原田佐久先生の講演があり、高揚大会は盛会裡に終了した。本大会において特に従来の高揚大会と異なった点は、前記のごとくPTA会員二名の意見発表を加えたことと、PTA会員の熱意を高揚大会に反映する意味でまことに有意義であった。以下大会順序の要点を報告する。

北条 静 男

には待遇改善をはからねばならない。また勤務年限延長の問題、父兄負担の軽減の問題等はPTAともよく協力して改善に邁進する。また正常化の問題についてはなおいっそう推進したいし、高校入試改善については、県教委、小・中・高校長会、学識経験者等の協力によって、改善の方向に努力してきたが、本年は一歩前進した解決の光を見出しつつある。教職員の待遇改善、PTAの負担軽減についてもその実をあげ、中学校教育の向上に努力し、尊敬と信頼の精神を基本とし日本国民の育成に信念をもって邁進したい。この上さらにみなさま方のご指導をたまわりますようお願いいたします。

祝辞

来賓の祝辞には、県議会議長代理として築瀬県議会議員、鈴木教育長（手塚義務教育課長代理）、市町村教委連合会長上野俊三氏、国會議員代表戸叶里子氏県PTA協議会長鈴木勲次郎氏、全日中学校長会長福島恒春氏各位の祝辞を賜りました。謹んでお礼を申しあげるとともに、紙面の都合上、築瀬県議会議員（議長代理）、鈴木教育長、福島全日中会長の祝辞の要旨を掲げます。

◎築瀬県議会議員

（議長代理）

最近における教育の現状は寒心に堪えない。中学校長として重大な日本の教育を担当する職にある皆さんの努力に敬意を表する。県としては、義務教育課を新設し、高校教育との格差をなくするための努力をした。しかしまだへだたりがある。今後も充分努力したい。本日は議長が来てお祝いを申し述べるはずであったが私が代りました。どうぞ民族教育の立場から大いにやっってもらいたい。県議会としても努力したい。

◎県教育委員会鈴木教育長
（手塚義務教育課長代理）

本日ここに栃木県中学校教育高揚大会が開催されるに当たり、一言祝辞を申しあげる機会を得ましたことは、私のたいへん喜びとするところであります。本県中学校教育は皆様方の適正な学校経営管理により、正常な教育活動が展開され、県民各位の信頼を得ておりますことは、まことに同慶の至りでありまして、皆様方の日頃のご尽力に深く感謝申し上げます。中学校教育は義務教育最終の教育として、また人間形成の最も重要な時代を担当する教育として、その重要性はますます論ずる要はありません。本日関係者が一堂に会され、中学校教育の高揚のため、協議されることは極めて意義深いものがあります。どうか充分に当面する諸問題について検討され、成果をあげられることを期待します。また教育委員会としても教育諸条件の整備充実のため皆様方のご意見ご希望を充分にうけたまわり、積極的に改善に努めたいと考えています。

さて折角の機会でもありますので、一言お願い申し上げます。現下の激動する社会情勢が教育界に与えている影響は極めて大きく、教育関係者として、この情勢の変化には充分の関心と注意が必要であります。とりわけ大学紛争を中心とする一連の政治的活動は七十年安保闘争を山として、ますます激しさを加え、高校・中学校教育にも望ましくない影響を与えています。

◎全日中学校長会
福島 恒春

このようなとき、学校における教職員人事管理、および生徒の管理指導を適確にし、ゆるがぬ教育体制を確立して、公教育の確保を図り、県民各位の信頼と期待に応えることは、管理職者として、極めて重要であります。また一方情報化社会といわれる新しい時代が目前にきているわけですが、この未だかつてない新しい社会の要請に応じて、教育の内容方法に充分の検討、改善を加え、教育の近代化を促進することは、これまた学校長に課せられた重要な任務であります。どうかこのような教育の一大転換期に当り、管理職者としての自覚を深め、連帯感を強く持ち、視野を広め、新しい教養と実力を養うとともに、教職員・生徒との心の交流を強化し、もっていつそう正常にして充実した教育活動が展開されるよう期待してやみません。本大会に当り、一言所感の一端を述べて祝辞といたします。

◎研究討議

か。宇都宮市の教育と東京の台東区の教育とあまりちがわない。次に新しい指導要領についても、もっと校長の主体性が尊重されるような教育でありたいと思っている。校長の教育精神がその学校の隅々まで及ぶような教育でありたい。校長の精神が各々の現場に行われていないのではないか。本日の高揚大会に大いなる成果のあがることを期待し祝辞といたします。

いのかと考えた。高揚大会は何の効果があるのだろうかという意見もあった。第六回の今度の大会はそれに答えて、校長だけでなくPTAの会長さんの振興についてのご意見も発表していただくし、また指導の立場の方、県教委、市町村教委の方々の将来のビジョン等もうけたまわり、大いに意義ある大会にしたいと思えます。

◎意見発表

(A) すこしでも振興させよう

日光中学校長

塩入安三郎

私の学校は十七学級、生徒数六五〇人職員三二名です。あるとき新任の教員八人になぜ先生になったのかときいてみ

た。八人のうち七人は先生にでもなるうか。先生にしかならない、いわゆるデモシカ先生だった。ところが教育実習をしてみて、それから先生になると決心したと言っている。私は教員になった以上はりっぱな先生に育てたいと思っている。それで今年若い頃から学級担任にした。毎日が希望と不安でいっぱいであったと感想をもらった。服装や態度が変わってくる。学校にも早く来る。やはり担任させてよかったと思う。ベテラン組は担任をはずされて、やや不慣れなところもある。しかしそれらの者は主任や副主任に就いた。教師に生甲斐を与えてやることが大切で、担任も一組二組と一組を男子とすれば、二組は女と、また古くいる者と新しい者という具合にペアで組み合わせ

など開かれる時もそんな考えでやっている。PTAについてはまったくよくやって下さっているの、何も言うことはない。農閑期PTAではだめだ。そのため農閑期にも会合を持つ。日光は観光シーズンになるとまた忙しい。忙しい時には切切している。こういう時に会合を持つ。こんなふうに行っている。もう一つは高校のように中学も考えたほしい。市町村では県立高校のために分担金を出している。吸い上げをもう少し少くしてもらいたい。そうすれば中学はもっと充実するだろう。

(B) 青少年健全育成の基本を考える

下江川中学校長

手塚 益雄

教育という仕事は、目新しいことを追って先端に行くことではない。着実に積みあげていくところに効果があがってくる。こうした発想からガバ大学生の問題をみると、教育に対する不信感から来ている。その余波が高校や中学にも及んでいる。ガバ大学生についても、その責任の一端は感じている。教育の諸条件が悪いからという理由だけではない。先生の仕事は濁った池に、やかんできれいな水を注いで、何とかきれいにしようとして

いるようなものだ。濁った水の量が多いと、いくらよい水を入れてもきれいなにならない。中学生にも十二、三年の歴史を背負っている。十二年としての人生観がある。ある日の道徳の授業に、Aという生徒は愛情という基盤に立って発言をした発言をしている。それは子供なりに人生観ができていくからである。立場を改めて考えるという事はむずかしい。この人生観は一体どこで育成されたものだろうか。学校よりむしろ家庭ではないだろうか。マスコミの影響も見がせない。もちろんマスコミにもプラスの面もある。しかしクイズに出て一年分のライオンをもらえたら、九州旅行が当たるとかこういうことが一獲千金を夢みて、勤労を厭う傾向がでないだろうか。小学生に向かつて、あなたは恋愛をしたことありますか、これらの例は教育の足をひっぱっているようなものだ。性教育の問題にしても、学校でやるべきものなのか、むしろ家庭でやることではないのか。父母の性教育からはじめなければならぬと思う。

そこで私は新しい時代に即した新しい精神教育をもり立てるべきだと思ふ。今後の課題として考えていきたい。今は家庭に家庭教育がない。学校に学校教育がない。社会に社会教育がない。それを正すものとして愛と敬の精神を大切に、人と人とのふれ合いを大切に、ここに健全な青少年の育成の基本的な問題があるのではないか。

(C) 中学校は予備校にあらず人間形成の道場たれ

宇都宮市立陽西中学校
PTA会長 大塚晃太郎

日本の産業界はすばらしい成長をなした。機械文明は人間を一個の部品とみるようになった。その反面人間はレジャーを求め、次にゲバ学生を生み、また青少年の犯罪を多くしている。戦争反対を叫びながらゲリラ戦をやっている。それが高校にまで及んでいる。校舎を破壊し、先生を誹謗し、同級生をけがさせている。これらの人がやがて日本の中堅人物として育つた時、不安でたまらない。中卒は金の卵だと言われている。それは貧困と能力の差の代名詞ではないか。彼等は次から次へと転職する。一方社会には誘拐事件があつたと絶たない。戦前は若者のエネルギーは戦争に集中した。戦後は入試の問題、狭き門のことばかり、発散するのはゲバ学生、それと無気力な覇気のない学生、中学校はどういう形になったのか。まさか中学校は予備校である

という人はいないだろう。しかし予備校化していることを否定することはできないだろう。そのために三つの提案がある。人間を作るのは人間である。人間を作る先生がどのように優遇されているか。他の企業の人よりも優遇されなければだめだと思ふ。次に戦前、戦中、戦後にあつて教壇に立つた先生の定年を延長すべきではないか。そして教育者としての使命に徹してやってもらいたい。今までの高揚大会ではこうやって教育の問題を話し合うことはなかった。教育委員会と父兄と、先生の三者が一体となって話し合ふ必要がある。国は大学に、県は高校しか考えていないようだ。今こそ全体が中学校の教育に目を開くべき時ではないか。

(D) 中学校教育の振興策

栃木市立南中学校PTA
会長 白井勤次

マスコミの中にPTA無用論というものがあつた。県の校長会は第六回の高揚大会に於いてPTAの意見発表の場を設けてくれた。感謝に堪えない。ずばり言わせていただければ私たちの発表はわずか一時間、来賓の祝辞は一時間、もっと発表に時間をかけてほしい。今日の中学校の施設設備の状態も、県立高校から見

ると低い。県立高校のために地元負担金を相当とっている。県は黒字財政なのだから今度は中学校の方にまで予算を出してもらいたい。中学校にボロを着せておいて、高校・大学に入れ、ゲバ棒を振りまわす学生になる。大切なのは中学校の教育なのである。一〇・二一・二二は大学だ、高校だといって対岸の火事視することはできない。今日ただ今、どうしたらよいか中心問題になろう。PTAの活動こそ大切なのは中学校でなければならぬ。予備校化した学校では困る。子供は父兄会に「お父さん、学校にくるな」という。「学校にくる時はよい着物をきてくるように」と家庭でささやかれている。入試間近になると大ぜい来るが、あとの時は学校に来ない。PTA活動を中学校でこそもりたてよう。次に中学校の先生にのぞむもので、農閑期PTAと言つた人があつたが先生方は忙しい。今日ここにくるにしても、先生方は出張か外勤でくる。PTAは休暇をとつてきて五時になったら帰る。日曜には行事を持たない。こんな点は考えてもらいたい。たい積極的な活動をするために、先生方もしっかりやってもらいたい。われわれは先生以外に頼む者はないのだから、ぜひ積極的な活動をお願いしたい。

次いで討議質問に入つたが、質問なく会員の意見発表があつた。

◎下都賀郡国分寺中学校PTA会長
意見発表の時間を、もっと与えてほしい。そのためには来賓の祝辞の時間を少くしたらどうか。

◎水塚校長
よく記録にとどめて来年は考慮します。

◎安蘇郡葛生中学校PTA会長
人命の軽視。あれすさんだ社会。おそろしいと心配している一人だ。教育を正常化させるためには、宗教心の啓蒙が必要である。信仰の自由ということで、先生方はさげているのではないか。本道の信仰は大切なのである。根本的な考え方を人間に植えてもらいたい。学校の道徳教育がどれだけ社会に生かされているか。宗教を根本的にみなおして大切にしてもらいたい。

◎水塚校長
学校教育においては特定の宗教については扱えない。しかし宗教的情操の教育については充分これからも行つていきたい。

◎宇都宮市立清原中学校須藤武校長
民主化そのものついでに考えたことについて、人権尊重というか、この核に向つてどうあるべきか。私は人間尊重をほり

さげ大切にすることが何よりも急務と思ふ。その手ははじめとして「あいさつ」をかわすことからはじめることはどうか。

◎宇都宮市立宮の原中学校草島尚介校長
中学生の意識調査の中で人生のなやみごとや困つた時「あなたは誰に相談しますか」という問に対し、先生にと答えたものは皆無という話を聞いた。これはゆゆしき問題である。先生はサラーマン教師になつて、大いに反省すべきではないか。近ごろの教師は萎縮しているのではないか。校長にも教師を愛する気持ちがあり、教委にも、もっと教師を援助する愛情があつてよいのではないか。

◎手塚義務教育課長
先生に対する愛情が少ないのではないかと、管理を強化しようとする考えはない。人間を尊重する立場をとつてゆきたい。

討議が終了してから、塩谷郡氏家中学校高瀬晃校長の司会で宣言決議文を朗読し、万場一致でこれを採択することを決議する。続いて北条会長の発声で万才三唱をなし、閉会をした。宣言決議は次のとおりである。

◎宣言決議

本県義務教育の確立を期し、中学校教育の質的向上をはかるため、本日、中学校教育高揚大会を開催し「中学校教育の振興をはかるためにはどうしたらよいか」を主題に研究討議した。

今般告示された教育課程は高度成長を期した、日本の現状に即応し将来の日本を背負うにふさわしい有為の青少年育成をめざすものであるが、この成否は、これが改訂の精神の正しい浸透、と今後の研究と実践にまつものとして現在中学校教育上、山積する諸問題の解決なくしてこれが効果ある教育の進展は望まれないものと信ずる。

われわれは教育正常化を推し進めている誇りと信念をもって、一致団結して諸問題の解決に邁進することを宣言し、左記事項を決議しこれが実現を期する。

決 議

一、新教育課程に伴う諸条件の整備充実

(1) 教育課程の研究と経営の合理化

(2) 教職員の資質の向上と教職観の確立

(3) 施設設備教員教材の整備充実

(4) 果敢による教員数の増加

(5) 事務職員・生徒指導主事・養護教諭・図書館事務教職員の増置

二、教職員の人材確保

(1) 待遇の改善と専門職制の確立

(2) 人事の適正化と勤務の合理化

(3) 勤務年数の延長

(4) 教員養成制度の改善

三、協力体制の強化

(1) PTAとの協力体制の強化促進

(2) 青少年の健全育成

(3) 安全対策の強化

昭和四十四年十月三十一日

第六回栃木県中学校教育高揚大会

講演 (要旨)

私のみたソ連

毎日新聞社囑託 原田佐久先生

ソ連は以前から鉄のカーテンと言われ、全く違った政治社会の中で暮らしている。最近ソ連か帰ってきた人の話をきいても、私の見てきたソ連とほとんど違ってない。正しくはソビエト社会主義連邦共和国といって、人口が二億五千万、広さは日本の六の倍もある。バイカル湖の上をジェット機で通ったが二〇分かつた。福岡から鹿児島位ある。いかに国土が広いかわかる。民族も一〇〇を超える。それらの民族が一つのイデオロギ一のもとに統括されている。長い閉鎖された政治が必要であったのではなからうか。私は南から北へと二万五千キロの主だったところは見てきた。まず住宅事情だが、以前よりよくなったものの、日本以上の住宅難である。五ヶ年計画で完成に近づいているが、新しいアパートに住むことはとても困難である。年間三百

が、共同組合精神でやっている。貯金は私有をみとめている。利子は一%。最近では三%になったとか。銀行にはあずけることができるが借りることはできない。株をやってもうけることもできない。車は外車はほとんどない。国産車で順番があり、申込んで手に入るまでに二ヶ年位かかる。いかに重工業が優先かわかる。

一般労働者の収入は一〇〇ルーブル、約四万円。科学アカデミーの会員になると二、二〇〇ルーブル、八八万円位で、大臣より高給である。収入の多い人で月三、〇〇〇ルーブル、二二〇万円。したがって貧富の差が大きい。背広一着買えない労働者もいる。そして個人的な自分だけのたのしみを得ることはできない。ボーナスも退職金もない。宇宙科学がさかんで、夫婦共かせぎが多い。夫一人の収入では生活できないし、物価政策について聞いても誰も言わない。ただパンなど人間の最低の条件の品物は安い。子供のものもすべて安い。したがって子供はきれいな服装をしている。物価は日本の二倍から三倍位で、高いものは十倍位している。

日本のようにストライキはない。人間は物を考えることもないようだ。全く無感動な表情をしている。政治や社会のことを聞いてもノーコメントである。

女が働きに出るので、子供に対する施設はよい。二才から三才は託児所、四才から七才は幼稚園になる。そしてどんな都市にも託児所が四〇から五〇位ある。私の見たウクライナの託児所には一六〇人位の子供がいた。保母・看護婦・医者合せて六〇人いた。またレニングラードの幼稚園では子供が体操をしたり、勉強をしたりしていた。詩の勉強をしていた。先生は劇団の俳優が教える。心の豊かな子供に育てるためだといふ。そして人生の基礎は幼稚園できまるといっている。

人口増加をはかり、受胎調節、妊娠調節は認められていない。学校は満七才で入る。十一年制。前の八年は小中学校、後の三年は高校で、ここでは義務教育である。レニン中学校の例をあげると、生徒数八〇〇人位、先生が五十二名で内男の先生は十一名で、あとはみな女の先生である。教育者の八〇%以上が女、医者は七五%が男で、女性の進出が目ざましい。義務教育でも英語とドイツ語を教える。英語の時間が七時間、英語はよく

普及している。夏休みは六・七・八の三ヶ月間あり、その時にキャンプをする。三週間ピョートル・キャンプです。ピョートルは一九二一年に出来た。開拓者という意味で、全部キャンプの費用は国で出す。ピョートルに行くとき赤い三角巾をつけている。祖国愛、国家意識を養うことを目標にしている。体と心をきたえ、次の国民を育成することを目的としている。費用一万三千円位かかる。

十一年の学校が終わると大学に行く。しかしその前に二年間社会に出て働く。教育と労働を結びつけて教育している。文科系は五年、理工科系は五年半。大学に入ると奨学金が出る。八〇%の大学生がもらっている。すねかじりは少なく、一ヶ月三〇ルーブル、一万二、〇〇〇円位で、あとはアルバイトをすればやっていける。大学院になると四〇ルーブル、一万六、〇〇〇円。モスクワ大学は入学資格が三五才まで。女子は五一%、男子四九%で成績も女子の方がよい。

宇宙科学なども女子の方が成績がよく人数も多い。しかし女は結婚すると子どもを生む。そして休む。これは国家的損失である。それがため女性の数を制限する。ここではじめて差別をつけている。

外では全く差別がなく、医者などで外科部長などつとめている女性は珍しくない。大学では落第はなく除籍をする。試験には筆記はなく、面接の形である。文字でなく、頭のすみずみの方まで見ることになる。大学を卒業すると職場が指定される。勉強しない学生は辺鄙なところにやられる。それだからよく勉強する。ソ連は老人天国である。女は五十五才男は六十五才になると年金がもらえる。月三〇ルーブル。自分の食費はこれで払うことができる。子供が生まれると若夫婦は親と同居する。経済的に楽である。買いたいものは行列して買う。そして行列をするのは老人があつた。社会保険料はない。これは社会主義国家のよいところであらう。

労働者の休息の家がどこにもある。つまり保養所のようなもので、有給休暇をとって、家族ぐるみでゆく。大体三週間位行っている。六〇%を組合が出し、あと四〇%を自己負担する。

女性の実力をよくみとめていて、女性と対しても女の人という感じがしない。そして働くことが身についている。女性の服装で外出着とふだん着の区別が

ない。ユニホームがなく、生が素材で単純である。食事などもたくさんパンをたべる。女の人は二十才をすぎるとどんどん太る。また入れずみが多い。校長先生や医者などでやっている人がある。海水浴に行っても、入れずみをしていない人は珍しい位である。

また最近では離婚がふえているそうである。アメリカでは一、〇〇〇人に二・二人の割であり、ソ連では一・一人の割である。離婚の時は家庭裁判所に行く。家裁では六ヶ月おく。そしてもう一度相談させる。どうしてもだめの場合は離婚させる。一日に四〇〇件位新聞に広告が出ている。離婚した場合、子供は母親の方につく。そして父親は収入の二五%を送らなければならない。二度離婚すると五〇%とられることになる。

コルホーズは農奴というみじめな生活をさせないために案出されたのである。土地の使用権を与えられ、収穫物の一定量を納める。コルホーズから供出したものを政府が与えるためか、食事はどこに行っても同じである。ホテルのメニューも二十年間変らない。列車食堂のサラダもモスクワのサラダも同じである。

生きてゆくに必要なものはあるが、それ以上のものは必要がないのだという考えのようである。じゃがいもなども改良する必要がない。いちごなど日本では小さくてとても売れないようなものが、ソ連では配給されている。農家の収入は七〇〇ルーブル、二八万円位で、どんな大きな農家でも一、二〇〇ルーブル、四四万円位である。

農家のエングル係数は六〇。%こんなことを考えると、果して社会主義社会はよいのであるか。何か矛盾が感じられる。物価についてはワイシャツが一万円紳士服四万円、ナイロン靴下五〇〇円あたりに日本よりは高いようである。

(完)



昭和四十四年度 栃木県中学校長会役員一覽

会 長

北条 静男(宇・陽北中)

副 会 長

永塚 正留(宇・一条中)

大出 好三(上・鹿沼東中)

高瀬 晃(塩・氏家中)

谷津 高司(足・協和中)

監 事

上野 逸郎(河・本郷中)

三宅 広孜(那・大島中)

藤掛 良一(安・新合中)

事務局 長

塚田 武男(宇・陽西中)

// 次 長

戸田 博宣(宇・星ヶ丘中)

// 庶務部長

野沢 平吉(宇・横川中)

// 会計部長

鈴木 信(宇・国本中)

部 長

研 修 部

永塚 正留(宇・一条中)

編 集 部

波多野 昇(宇・陽南中)

進 対 部

坂本 徳重(宇・陽東中)

調 査 部

刑部 喜三郎(宇・泉ヶ丘中)

職 対 部

大岡 信一(上・粟野中)

修学旅行部

塚田 武男(宇・陽西中)

福利厚生部

井田 福次(宇・旭中)

理 事

宇都宮地区

北条 静男(宇・陽北中)

河内 //

玉生 勘造(河・古里中)

上都賀 //

大出 好三(上・鹿沼東中)

芳賀 //

永嶋 俊二(芳・益子中)

栃木 //

渡辺 重一(栃・栃木東中)

小山 //

和 気 道(小・小山中)

下都賀 //

上岡 竹松(下・藤岡一中)

塩谷 //

高瀬 晃(塩・氏家中)

那須北 //

佐藤 三夫(那・大田原中)

南那須 //

萩原 正(那・烏山中)

佐野 //

小野塚 政治(佐・城東中)

安蘇 //

縫田 文次郎(安・田沼中)

足利 //

谷津 高司(足・協和中)

足尾 //

谷口 寅次郎(上・足尾中)



編 集 後 記

昭和四十五年の新春を迎えて、おめでとうございませう。顧みると昨年は大学問題並びに高校問題等、激動する世情の中に第六回本県中学校教育高揚大会を開いたわけですが、この大会の状況を各方面にお伝えし、その状況を回顧するとともに七十年安保の年を迎えるにあたり、我々ますます中学校教育の重要性を再認識する必要があります。そして結束をいよいよ固くし、万全の体制の下に、本県中学校教育の充実発展を期したいものであります。終りに本大会の記録をまとめて下さった高橋俊磨校長に深く感謝申し上げます。(宇・陽南中 波多野記)

発行人 会 長 北条 静男

(宇都宮市立陽北中学校長)

編集人 編集部長 波多野 昇

(宇都宮市立陽南中学校長)

印刷所 三共印刷株式会社